





## 5 鬼山地獄



鬼山という地名に由来する鬼山地獄。別名「ワニ地獄」の名で親しまれています。大正12年に日本で初めて温泉熱を利用したワニの飼育を始め、現在100頭のワニを飼育しています。泉温98度。

## 6 白池地獄

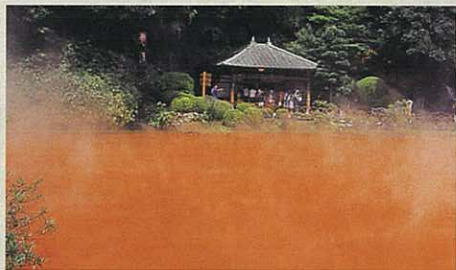
国指定名勝



噴出時は無色透明の熱湯ですが池に落ち、温度と圧力の低下により自然に青白色を呈してきます。園内では温泉熱を利用して、各種の大型熱帯魚を飼育しています。泉温95度。含むホウ酸食塩泉。

## 7 血の池地獄

国指定名勝



煮えたぎる粘土は、噴気までが赤色。豊後風土記に「赤湯泉」と記された日本最古の天然地獄です。ここから産出する赤い粘土で、皮膚病に効く「血の池軟膏」が作られています。泉温78度。

## 8 龍巻地獄

国指定名勝



別府市指定天然記念物の「間欠泉」。間欠泉は一定の間隔で熱湯と噴気を噴出します。世界の間欠泉の中でも休止時間の短いことにおいて注目を浴びています。

## ”地獄”の名称由来

ここ鉄輪・亀川の地獄地帯は、千年以上も昔より噴気・熱泥・熱湯などが噴出していたことが「豊後風土記」に記せられ、近寄るともできない、忌み嫌われた土地であったといわれています。そんなところから、人々より、「地獄」と称せられるようになりました。今も鉄輪では、温泉噴出口を「地獄」とよんでいます。

## 地獄の讃

ダンテにしても、ミルトンにしても、ブレイクにしても、その描いた天国はちっとも美しくもなければ面白いこともない。それなのに地獄篇になると、まったく凄まじい楽しさだ。そこには生きるものの残虐さが遺憾なく表現され、僕など極楽へやってもらうよりは地獄行を願いたい。偉大な詩人や作家によって描写される天国も地獄も、近代人にとっては恐ろしいところでもなく、羨ましいところでもなくなった。

しかしながら我が別府に遊ぶと八大地獄が現前する。これは確かに恐ろしい地獄に相違ない。熱湯が噴出し、轟々と地鳴りがし、生きた巨大な鰐が数えきれないほど奔めき、鬼こそ目に見えないが足を滑らせたら、一瞬にしてこの世のものではないのだ。地獄の釜より熱いだろうと思うと地獄へ行きたい根性などがき消えて仕舞う。

人間は一度は現世の地獄を見、何等かの意味でおのれを空しうして反省し生きる道を考えるには別府の地獄の諸相を目の当たりに見ることを寧ろ御すめしたい。地獄をくぐって生き返った人間こそ本当の人間だからだ。



今東光

今東光  
Kon Toukou

直木賞作家で天台宗の僧侶でもあった今東光氏。昭和32年、『お吟さま』で直木賞を受賞後、『悪名』『こつまなんきん』『河内風土記』など、一連の「河内もの」を立て続けに発表。その多くは映画化され、作家として不動の地位を築きました。

【国指定名勝】

国が指定した文化財のひとつ。特に「名勝」は優れた景勝地のことを指し、温泉としては全国で初めて海、血の池、龍巻、白池の4つの地獄が選ばれました。

## 1 海地獄

国指定名勝



神秘的で涼しげなコバルトブルーの池…。じっとみていると海のようにですが、実は摂氏98度もあるのです。今から1200年前に鶴見岳の爆発によってできました。豊後風土記にいうところの「玖倍理の湯」にあたります。



灰色の熱泥が大小の球状をなして沸騰する様が坊主頭に似ており、鬼石という地名に由来して鬼石坊主地獄と呼ばれています。

## 2 鬼石坊主地獄

## 3 山地獄



山のいたるところから噴気が上がっているため山地獄と呼ばれています。温泉熱の利用により飼育されている、世界各国の珍しい動植物はみんなイキイキ。泉温90度。

## 4 かまど地獄



昔、氏神籠門八幡宮の大祭に地獄の噴気で御供飯を炊いた習わしがあったところから名付けられました。猛烈な噴気と共に高熱温泉を出しています。泉温90度。